

終末のフル

伊坂幸太郎



— 今日という日は奇蹟と化した日々最初の一日。 —

自分の人生はまだ長い。と信じていた私が、ある日突然「あと八年の寿命」と言われ、死ぬのを思ってしまった。でも、「私の寿命」とは、私、「世界の寿命」だったのだから、全く、ものごとは私の意思をこえてくる。そんな時、人は何をするか。それを、「終末のフル」、「太陽のフル」、「地球のフル」、「冬眠のフル」、「閉鎖のフル」、「天啓のフル」、「演劇のフル」、「深海のフル」の8つに分けて描いている。誰かこの世のすべての位置を占めるもの、自分の命を終わらせるもの、寿命が逆さまに流れて、人間たちはその世の人々に決断していく。

本の厚さが丁度良くて、批評的すぎる流れる本だと思える。おもしろいので、是非読んでみて下さい。

